

Googleはこの広告の表示を停止しました

買う

2022.10.28

# 春日部の靴店、製靴から始まり100周年 50年来の常連客も



(左から) 長岡紀子さん、母の森泉恵子さん



41

1

婦人雑貨や靴を販売する「もりいずみ靴店」（春日部市粕壁1、TEL 048-752-2557）が10月11日、創業100周年を迎えた。

## 昭和30年代のもりいずみ靴店

春日部駅東口改札から徒歩約2分の場所に位置する同店。1922（大正11）年、小林善太郎さんが粕壁2丁目付近で製靴店を創業。1938（昭和13）年に現在の場所に移転した。

3代目店主の長岡紀子さんは「祖父は東京で生まれ、現在の上野のアメ横周辺の靴店で修業したと聞いている。その後、春日部在住だった祖母と結婚し婿に入った」と話す。

小林さんは客の足の寸法を測り、デザインなどの要望を聞き製造。現在の場所に店を開いてからは店内の工房で一日中靴を作っていた。長岡さんは「祖父はたばこを口から離さない人だったので、たばこをくわえながら靴を作っていた。祖母は店内で地下足袋や学生靴など一通りの靴製品を販売していた」と話す。

1960年代、春日部駅東口駅前周辺に買い物に訪れる人が多く、店は繁盛していたという。1972（昭和47）年に小林さんが亡くなったことから製靴をやめ、販売アイテムを減らした。1970年代後半には市内に競合店が出来始め、客数が減少。その頃は長岡さんの母の森泉恵子さんが1人で店頭に立ち、仕入れた靴や手製のバッグを販売していた。

1996（平成8年）ごろから店で働き始めた長岡さんは「東京で働いていたものの、母が大変そうだったこと、自分が外反母趾（ぼし）でもあることから足や靴に関するいろいろなことを学び、シューフィッターの資格も取得して、店で働くことにした」と振り返る。ターゲットを女性に絞り、靴や服、バッグ、ウォーキングシューズも取り扱いはじめたことから再び客数は増えたという。現在の人気商品は、ウォーキングシューズやチュニック。

長岡さんは「顔なじみのお客さまが多く、中には50年くらい来ている人もいる。いつの間にか100周年を迎えたような気持ちだが、お客さまに支えられていると感じ、とても感謝している。これからも、お客さまがより良い毎日を送れるような、すてきな服や体にいい靴を提案できるように頑張っていくたい」と意気込む。

営業時間は9時30分～18時30分。日曜定休。

地図を見る



【広告】

## PayPay導入忘れてませんか？

PayPayをよく使っているユーザーの  
実社会調べ  
**4人に3人が** PayPay

お店選びの際にPayPayが使えるかを気にしています。

提供: PayPay

※2021年12月23日～27日実施ユーザーアンケートより[PayPayを月5回以上使用しているユーザーの中でPayPayが使えるお店を優先して選ぶ]「あればどちらを選ぶ」と答えた割合(%)=50%

春日部経済新聞  
広告を掲載しています

新規事業告知・事業案内など、  
広域春日部圏にアピールしませんか。

## 週刊みんなの経済新聞 ハッピーニュースアワー

### アクセスランキング

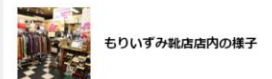
- 1 春日部の靴店、製靴から始まり100周年 50年来の常連客も
- 2 富代町「ロッコ」に米菓店 造園会社が「地元のソウルフード作りたい」
- 3 富代町「ロッコ」にギリシヤヨーグルト専門店 春日部の「おづつみ園」が運営
- 4 富代町「ロッコ」にコーヒー専門店 春日部出身バリスタ嵐山大輝さんが初店舗
- 5 埼玉・富代町で6戸の空き家をリノベーションした施設 期間限定の出店者募集

もっと見る >

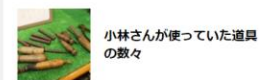
### フォトフラッシュ



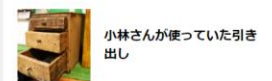
年季の入ったシューズストレッチャー



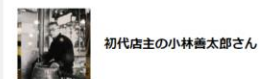
もりいずみ靴店店内の様子



小林さんが使っていた道具の数々

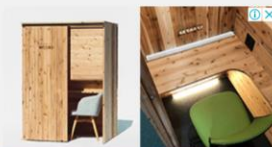


小林さんが使っていた引き出し



初代店主の小林善太郎さん

もっと見る >



天然木のテレワークブース **WOOBO**

- ✓ 周りに気にせずWEB会議ができる
- ✓ 自宅で集中して作業ができる

KIJIN